

第4回 百間川分流部周辺有効活用方策検討協議会：議事録(案)（議事要旨）

- 1．開会あいさつ
- 2．旭川・百間川全体治水計画について（事務局より説明）
- 3．分流部の治水計画について（事務局より説明）
- 4．公園構想と治水計画との調整課題について（事務局より説明）

旭川・百間川全体治水計画に関する意見

発言者等	発言概要等	詳細議事録P
今本委員 1	・流下能力はどのようにして推定されたのか。計画高水位なのか、堤防の天端高なのか。	5P
事務局 2	・計画高水位にてシミュレーションを行った結果を流下能力として評価している。堤防の天端高までは考えていない。	5P 6P
今本委員 3	・洪水が計画高水位以上になることもある。その場合、堤防の破壊を言われるが、逆に壊れなくする方法もある。洪水を堤防満水位まで流した場合の流下能力を参考までに示して頂きたい。	6P
名合会長 4	・次回の協議会にて提示することとする。	6P
傍聴者（大森）5	・百間川河口水門の能力は、 $200\text{m}^3/\text{s} \times 6$ 倍であるが、「百間川改修誌」によると、昭和9年洪水時の排水能力は約 $600\text{m}^3/\text{s}$ 弱で、全体能力が機能しなかったため被害が起きたとある。今後、百間川へ $2,000\text{m}^3/\text{s}$ を流すにあたり、余裕を含めて慎重にお願いしたい。	6P
渡部委員（事務所長）6	・昭和40年に排水能力 $1,200\text{m}^3/\text{s}$ の現水門に改修し、現在、さらに河口水門の増築を事業中で、 $2,450\text{m}^3/\text{s}$ の排水能力を持つ計画であり、ご心配の向きはないと理解頂きたい。	7P
長江委員 7	・昭和22年に小田川による浸水を経験した。洪水を考える上で、森林が重要で農林部との連携強化も必要であることを補足したい。	7P
柴田委員 17	・百間川の分流部を改善した際、旭川の西中島、東中島の安全性にも配慮頂きたい。	17P
由比浜委員 56	・一の荒手、二の荒手という歴史遺産の形を変えるか、極力保存するかが問題になってくるが、その前提として、室戸台風による洪水流量が非常に大きいことがある。湯原ダム、旭川ダムはその後できているが、防災効果の期待できないか。	34P 35P
57	・従来の防災は、水を漏らさない河川改修方針だったが、最近、床下浸水までは構わないという方針転換をされたと記憶している。これに合せて流量を見直してもいいのではないか。	
渡部委員（事務所長）58	・現在の治水計画では、150年に1回という洪水量 $8,000\text{m}^3/\text{s}$ を見込んでいる。この内 $2,000\text{m}^3/\text{s}$ は上流のダムでの調節を見込んでおり、岡山市内に入ってから旭川については、室戸台風と同じ $6,000\text{m}^3/\text{s}$ が来ても安全な治水計画に取り組んでいる。	35P 36P 37P
59	・湯原ダム、旭川ダムは発電を主体に建設した歴史があり、一部これを治水に利用しているが十分ではなく、さらに安全なものにする必要があると考えている。これと並行しつつ下流についても $6,000\text{m}^3/\text{s}$ を旭川本川と百間川で分担する必要がある。	
61	・従来のように、上流から下流まで連続堤防で整備するのは大変な費用と時間がかかるので、昨今では必ずしも連続堤防方式ではなく、地域に合った治水計画の話をしている。	
62	・旭川の治水計画の歴史として、都市開発と連続堤防によって中原や大原遊水池が失われた経緯があり、百間川に洪水の負荷部分をお願いしてきている。地域の様々な要請の中での選択を経て岡山地域が発展してきたことも踏まえ、現在百間川にもその負荷分として一の荒手の改修が大変重要であり、地域の方に理解して頂きたく協議会を開催している。	
由比浜委員 63	・百間川に流入する水量も頻度も多くなるが、中流の屈曲部の堤防は大丈夫か気になる。	37P

渡部委員 (事務所長) 64	・ 水平な区間が続き対象地点付近は上流に比べ川幅も膨らんでおり、猛烈な流速となる区間ではないので大丈夫ではないかと考えている。	37P
名合会長 65	・ 大曲のところは昭和9年洪水でも破堤している。水衝部で危ないところであり、常に留意して頂きたい。	38P
傍聴者 (大森) 66	・ 旭川ダムの3,300万m <sup>3</sup> は、流域面積から見たら無いに等しいが、湯原ダムは8,600万m <sup>3</sup> あり、上手に調整すれば防災機能としても期待できるのでは。	38P
今本委員 72 73	・ 治水の問題をいろいろ議論されているのを聞いて少し検討不足なところが多いと思う。特に、一の荒手付近、旭川の大きな中州の取り扱い等、長期的な観点から、旭川の本川側もどうするのかを組合せて百間川のことを考えて頂きたい。 ・ 大曲の区間についても多分大丈夫では困るので、十分に検討して頂きたい。	39P 40P
渡部委員 (事務所長) 74 75	・ 組織として勉強しながら蓄積しているものがある中で、私自身が不勉強で説明しきれない点があり、また何度か機会を頂いて分かりやすく説明したいと考えている。 ・ 旭川の中州については、明星堰をはじめ、上下流の農業用や水道用の取水堰等が連なり非常に問題意識をもっているが、取水堰や中州がなかった場合、洪水が一気に流れ後楽園付近から中島付近の危険性が高まることもあり、管理者として今まで検討してきた過程で言えば、分流近辺のいろんな施設は現状のまま残すことを前提で分流を想定している。	40P
傍聴者 (大森) 81 82	・ 津田永忠は鉄砲水を緩衝するために玉柏、地藏、大砂田地区等に遊水池を設けていたが、今はほとんど無く、対策はどうなっているかと心配している。 ・ ダムの放流に市、県など様々な機関が関与していて決定に時間がかかる。迅速な情報伝達や決定のために一元化が必要なのではないかな。	43P
名合会長 83	・ 津田永忠の鉄砲水の情報があれば調査しおいて頂きたい。	44P
渡部委員 (事務所長) 84	・ 行政機関の情報を一般市民にどうやって伝えるかが課題となっており、防災体制の改善点について今後とも検討していきたい。	44P

#### 分流部の歴史性の継承、分流方式に関する意見

発言者等	発言概要等	詳細議事録P
今本委員 9 10 12 13	・ 亀の甲や二の荒手にしても、残すということを出発点とした上で、治水計画を検討した痕跡が見当たらない。 ・ 背割堤という言葉が使われているが、分流部のところは分流堤であって専門用語としては使い方が誤りで検討頂きたい。 ・ 堤防は計画高水位までしか考えていないとあったが、これが、明治以降、近代河川として進めてきた河川行政の最も大きな欠点だと考えている。今は、計画高水位を超えても破堤しないようにするのが、治水の大目標であると考えている。 ・ そういう観点から、現在の計画に疑問がある。特に、歴史的構造物を治水的に撤去するのがいいのだろうか。治水は、そこに住んでいる人の命との引きかえとなる。溢れさすと言うのではなく、例えば50年か100年に1回位は溢れることもある。その場合に、人の命を守り、床上浸水は許さないような考え方をすれば、違った治水の方式がある。そこまで考えて、二の荒手や亀の甲を我々の世代で葬り去っていいのだろうかをお考え頂きたい。	14P 15P
柴田委員 14 15	・ 治水の問題が両立できれば、一の荒手や二の荒手を、できるだけ保存して頂きたい。その場合、越流した洪水の処理方法が、百間川と田原井堰で違うと思う。 ・ 田原井堰の場合は、越流部の下流に大きな石を並べて掘れなくしている。百間川の場合は、一の荒手と二の荒手の間を洪水の越流前にプールにして洪水を受止めるようにしている。一の荒手や二の荒手を保存しながら、その知恵を活かせる方法が考えられるのでは。	16P

鑛山委員 21,22	・減勢池は、一の荒手の越流部分の傾斜が非常に大きいために必要かと思うが、一の荒手から百間川へ入る傾斜を、もっとなだらかにすれば不要ではと思う。	18P
名合会長 23	・水理模型実験での検討の様子があるので、越流の様子など参考までにお願したい。	18P
事務局 24	・護床工がない場合の実験があるが、2カ所の非常に大きな深掘れが確認されており、何らかの手当てを事前しておく必要があるというのが現在の検討状況である。	19P
名合会長 25	・これまでの議論で非常に大きな課題が残ると思うが、治水計画と環境計画の問題は非常に大きなテーマで、ここで結論の出るようものはないと思うので、頂いた意見を整理して次回でまた討議することとする。	19P
傍聴者 (大森) 27	・第一荒手から南に500m辺に3m <sup>2</sup> 程度の穴があり、戦前は掃除していたと聞いている。非常に重要な機能を持っていたのではと思う。津田永忠の治水に対する考え方が、現代において希薄になっていることを危惧している。そのことを補足したい。	20P
池田委員 28	・模型実験の中で、減勢池ではなく緩やかなスロープとした場合、築造当時の構造での検討結果はないのか。	21P
事務局 29	・緩傾斜のような形での実験は行っていない。築造当時、荒手の下流側は全て水田で現況地盤程度の高さであったと考えている。	21P
名合会長 30	・現況のコンクリート張越流部の下流側は急勾配であるが、現在の計画案では、かなり緩いような気もするが、また比較資料を提示頂きたい。	21P
池田委員 40	・一の荒手と二の荒手間の元々の構造は、水を張った状態で、減勢池や護床工なしに、穏やかなスロープで洪水を入れていたと聞いている。流量が増えるため全く同じ形は無理だが、津田永忠の技術を検証し、それを活かした形、発展させるような整備はできないのか。	27P 28P
41	・何百年間において役割を果たしている分流部の構造は、かなり意義のあるものだと思う。一の荒手や二の荒手の施設は、壊れた場合、直せる範囲なら直せばよいと思う。	
42	・計画ありきで模型実験がされているように見え、本来の構造機能を十分発揮した計画になっていなく危惧している。本来の機能を最大限活かす検討の結果、何ができなくて、どう変更する必要があるかを示して頂けると納得できるのでは。	
波田委員 49	・高水敷はどれぐらいの頻度で冠水する計画か。左岸側のグラウンドなど場所によってはゴミの集積場となる恐れがあり、冠水頻度を示して頂きたい。	32P
傍聴者 (長江) 51	・一の荒手越流部は、下げないで間口を広げることで流量が確保できれば、グラウンドなどが冠水する頻度が少なくなり利用しやすいのではないのか。	33P
事務局 52	・一の荒手の越流頻度は現状で5年以上に1回程度で、計画では年1回程度になる。ただし、低水路である程度処理できるので、高水敷が浸かる頻度は変わってくる。	33P 34P
53	・越流部の切下げについては、一の荒手付近しか効率的に越流できる場所がなく、一の荒手より下流に幅を広げても効率的に分流できないため、切下げで流量を確保する必要がある。	
渡部委員 (事務所長) 54	・下流に行くほど旭川の水位が下がり、百間川に分流しにくくなるため、上流部での分流を考えている。	34P
55	・百間川への越流については、現在、旭川の流量が概ね1,700m <sup>3</sup> /sで始まるが、計画では旭川の流量が概ね1,000m <sup>3</sup> /sで始まることとなる。低水路は概ね200m <sup>3</sup> /sで満杯となり、これを超える分流量の場合は高水敷が冠水する。現状では何年かに1回だが、毎年冠水することも考えて頂きたい。	
久保委員 99	・津田永忠の治水や自然環境に対する考え方が、あまり知られていないのではないのか。それを明らかにし、河川行政や利用面にどのように引き継ぐか、その場合、どのようなデメリットがあり、どのように改善を考えているかなどを対比した形で提示して頂きたい。	49P
名合会長 102	・河川管理者としても、昭和40年代、百間川放水路の改修が始まる前からこれまで津田永忠や熊沢蕃山の功績については事業を進める上でかなり整理されていると思うが、歴史的経緯などを整理した上で、どのようなスタンスで望んでいるかなどを明確にすればと思う。	50P

### 堤防の安全性に関する意見

発言者等	発言概要等	詳細議事録P
柴田委員 18	・堤防を越える観点だけでなく、下を潜る水対策についても併せて検討頂きたい。	17P
枝松委員 33	・今在家あたりは百間川の取り入れ口で、東側手の今在家寄りの堤防が非常に危険ではないかとのことから、地域住民から堤防補強の要望がある。左岸側の周辺堤防については、緩傾斜化による堤防整備が示されているが短期計画の予定か。	25P
事務局 34	・ボーリング調査結果からも浸透対策の必要性が明らかになっており、短期計画として堤防強化の必要があると考えている。	25P 26P
傍聴者 (大森) 67 68	・昭和9年洪水の6,000m <sup>3</sup> /sより、明治25年洪水の方が、京橋における水位は大きく計画流量を上回っていると推察している。この時、一の荒手の東側の今在家の堤防が崩壊して2～3軒流されており、流量を見直してシミュレーションして頂きたい。 ・洪水時に地下水が吹き上げてきて、高島地区が浸水したが、荒手を1.3m下げるとさらに危険になるのではないかと、住民として心配している。	38P
名合会長 69 70	・水位がそのまま流量になるとは限らないが、そうしたデータをもう一度整理頂きたい。 ・川の水位が上がリ、地下水流が吹き上げてくることはわかるが、そのあたりは、先ほどのボーリング調査の話と関連するか。	38P 39P
事務局 71	・堤防の浸透に対して対策が必要であることはボーリング調査で明らかになっており、堤防本体の土を吹き上げないような出口処理を今後の対策に考えている。	39P

### 分流部周辺有効活用の基本的な考え方に関する意見

発言者等	発言概要等	詳細議事録P
今本委員 11	・最近、河川環境で問題になるのは、公園的な利用をしている高水敷に水が乗らないことで、その結果、樹木が繁茂したりしている。河川本来の姿で言えば、ある程度、高水敷に乗る必要がある。今の低々水路案にしても、非常に公園的な要素が含まれ過ぎていると思う。	15P
柴田委員 16	・河川敷を有効に使うことは良いが、分流部は川であって公園整備が優先するのは、本末が逆ではと思う。	16P 17P
波田委員 19	・低水路整備のイメージが公園整備を先行させているとのご指摘等あったが、そうした観点から議論したのではなく、河川特有の植物と生態系を実現させ、川らしくできる限り持続する観点から議論した結果であることを補足したい。	17P
鑛山委員 20	・私たち市民グループも、水辺をハード的、治水的に、どうできるのかを検討していきたいと考えている。今回提示頂いた低水路整備の図は、自分たちが具体的なイメージを持つのに非常にありがたい。	17P 18P
名合会長 26	・有効活用については、自然的な公園の方向性で意見がまとまっていると思うが、学術的に検討頂いている低水路のイメージ図を基に調整、マッチングしていけばと考えている。	19P 20P
池田委員 43	・減勢池や護床工など強固な構造物を設けなくて、自然公園的な整備はできないだろうか。また、低水路について3つの案が出ているが、全体を緩やかな緩傾斜案とすれば水際植生の多様性も確保できるのでは。	28P
名合会長 79	・公園構想として整備する場合、市が整備主体となる話が前から出ているが、市の立場からの問題点はないか。	42P
青木委員 80	・下流部にはいろんな施設があるので、分流部についてはなるべく自然を残した公園を考えている。	43P
久保委員 100	・百間川の現状として、下流側の野球場、テニス場など「市民が利用する場」と「自然的な草地のままの場」との比率について、河川行政としてどう考えられているのか。このままだ	49P 50P

101	と、自然が残らないのではないかと、自然として残すもの、洪水時に支障のないもの、そして人間が利用するもの、これらのバランスについての考え方も提案頂きたい。	
名合会長 103	・百間川高水敷の利用の考え方については、昭和50年代の検討を引き継いでいると思うが、現在の考え方を明確にすることが必要かと思う。	50P 51P

具体の調整課題、有効活用に関する意見

発言者等	発言概要等	詳細議事録P
池田委員 31 32	・防災ステーションは、水防活動以外の時は一般の利用ができるように配慮して頂き、施設の中に、川の環境学習センター機能と地域コミュニティセンター機能を合せて持たせて欲しい。 ・整備の方法として、グラウンド整備を先行させるなど、やりやすい所から進めるやり方は止めて欲しい。ただし、防災ステーションについては、防災面で緊急性もあり、先行して取り組んで欲しい。	24P 25P
枝松委員 35	・ヘリポートがあれば、急病や災害時に非常に安心できるという地域住民の要望が多くあり、検討をお願いしたい。	26P
事務局 36	・防災ステーションにてヘリポートを検討しているが、細かいところは岡山市と詰めていくことになる。	26P
名合会長 37	・防災ステーションの具体的なイメージはいつ頃できあがるのか。まだ、白紙の状態か。	26P
事務局 38	・交流機能等を加味した方向で建部町の事例も意識しながら、岡山市と調整し進めていきたいと考えている。	26P
名合会長 39	・地域の方々が集まって来るような施設に是非して頂きたい。また、地域の方々も含めて、施設の内容等を議論できる場を設けて頂きたい。	27P
池田委員 44	・中島竹田橋近くの右岸側のグラウンドは、できる限り現状のまま残す配慮ができればと思う。左岸側のグラウンドは、防災ステーションの広場を活用する形にして、グラウンドのために堤防の緩傾斜ができないとか、自然性を十分確保できないということがないようにして頂きたい。	29P
傍聴者 (丹下) 45	・岡山中央リトルリーグにて右岸グラウンドを借りているが、現在でも少し狭いぐらいで、場所は少々移動しても構わないが、野球ができる広さは確保して頂きたい。	30P
傍聴者 (藤原) 46	・現在、東岡山クラブで左岸の今在家側グラウンドを使用している。治水、防災が最重だと思うので、出来る限り現状を残して頂けることは有難く、少々削られることに関して異議はない。要望としてはスタンド等いろいろあるが、小学生も一緒に利用できるような検討して頂きたい。	30P 31P
枝松委員 47	・今在家のグラウンドでは敬老会のグランドゴルフ利用がある。堤防の緩傾斜化で多少狭くなるとのことだが、防災ステーションの広場を使わせて頂ければ支障はないと思っている。防災ステーションの整備を早急をお願いしたい。	31P
波田委員 48	・体験学習田の構想については水源をどうするのか。冠水すると稲がだめになるので、この場所だけでなく、通学路近くの既耕水田を利用してはどうか。	31P 32P
鑛山委員 50	・体験学習田の言葉、表現に誤りがあることを補足したい。ここで言う体験学習田とは、春先ぐらいまでは普通の草が生える陸に堰を設け、水位調整することで水が張る水田のようなアユモドキの産卵に適した場所のことであり、こうした場所を創りたいと考えている。	32P 33P
藤原委員 76	・千間原っぱ周辺は、タンチョウヅルの飼育に格好の場所との意見もあり、タンチョウヅルの飼育も含めて検討して頂きたい。	41P
波田委員 77 78	・一の荒手付近の減勢池については、1つの提案として最初から水を溜めておくことも考えたが、機能的に数メートルの水深が必要で子供達が集う場所には難しく現在の案に妥協しているが、分流前に水を溜める方法もあり得るかと思う。 ・タンチョウヅルの話はよくわかるが、グラウンドの近辺でタンチョウヅルと子供達が共存するのは難しいと思う。	42P

今後後の進め方と地域住民の意向把握方法について（事務局より説明）

地域住民の意向把握方法に関する意見

発言者等	発言概要等	詳細議事録P
名合会長 85	・意向把握の方法として、アンケート調査と意見交換会が予定されているが、アンケート調査の具体的な内容をどう考えているか。	46P
事務局 86	・別途配布資料の「協議会だより（案）」巻末に示しているが、今後こういった内容で意見を伺いたいと考えている。	46P
名合会長 87	・前回示された公園構想案や今回のゾーニング案も含めた調整案、今回の議論をまとめたものを基に、地域の方々との意見交換を行う方向についてご意見を頂きたい。	46P
池田委員 88 89	・意見交換自体は問題ないが、今回の討議でゾーニング案や治水検討からの根本的な形状についての疑問の声がある中、現在のプランを投げかけると、協議会の経緯や今回の議論を知らない人々は、プランありきでの意見しか言えないのではないかと。 ・現在のプランに対し、根本的な点への様々な指摘があり、そうした中で、現在のスケジュールで意見交換会をどのように進めるのかお聞きしたい。	46P 47P
名合会長 90	・今回の協議会での意見や問題点をまとめ、それを添えた上でアンケート調査や意見交換を進めて頂きたい。また、アンケート調査については、いつ頃実施する予定か。	47P
事務局 91 92	・協議会での討議内容を集約し「協議会だより」にも掲載した上で、地域の方々への説明を考えている。 ・アンケート調査は、協議会での意見概要をまとめてからの発送予定である。	47P
名合会長 93	・アンケート内容についてのご意見を頂き、それを踏まえて修正し、最終的なものにしていくことでお願いしたい。	48P
鑛山委員 94	・アンケート調査内容の中に、例えば、「一の荒手を、二の荒手を壊すことについてどう思われますか」などの質問が見当たらないが、一の荒手、二の荒手を残してくれと言う市民意見もあり必要だと思う。	48P
名合会長 95	・ご指摘のような意見も事務局の方に出して頂き、それをどう取り上げるかを検討して頂きたい。また、周辺情報として、歴史的な構造物である事実、治水に対する考え方、公園についての考え方などが必要になると思うので、これらについても検討頂きたい。	48P
今本委員 96 97 98	・評価が分かれるのは「グラウンド」についてだと思う。淀川水系流域委員会でもグラウンドをどうするのかについて、「川は川らしくあるべき」という観点から、「川以外でできるものはなるべくやめていく」提言を行ったが、利用者から猛烈な抗議を受け、内部でも非常に議論となった。 ・新たに堤外地にはグラウンドなどを造らず、現状利用を進めるものの、一方で堤内地へ代替地を見つけるべきであり、またそのためにも現在利用している利用者の方々にも協力頂くことが必要かと思う。 ・一の荒手、二の荒手、グラウンド等については、アンケート調査だけでは聞きとれない面もあり、是非、利用者や地域の方々へのインタビュー形式も行って頂きたい。	48P 49P
池田委員 104 105	・アンケート調査を行う際には、できる限り状況などをイメージしやすい「絵」などを付して頂きたい。 ・アンケート調査や意見交換会の対象エリアとして3つの学区が示されているが、隣接する幡多学区なども対象とすべきでは。本来は百間川全体において聞くべきで、分流部周辺の学区以外についても、できる限り多くの意見が伺えるよう広報方法などに十分配慮頂きたい。	51P

今後の進め方、次回協議会へ向けての意見

発言者等	発言概要等	詳細議事録P
<p>名合会長 106 107</p>	<p>・今回の協議会では、公園構想に対する治水の条件や治水の面からの課題、さらに、治水計画全体の話等についても多くの貴重な意見を頂いた。 ・次回、第5回協議会では、公園構想を実現していくには、どのような具体的な方策が必要かなどについて、さらに議論を深めたいが、次回の議題などについて提案頂きたい。</p>	<p>51P 52P</p>
<p>池田委員 108 109</p>	<p>・今回の議論で、かなり治水計画の根本について問いただす意見があったが、これに対応した内容を次回に示して頂きたい。 ・例えば、今回討議された治水の根本的な話に対し、どのように見直したか、また百間川の旧来の形状に沿った計画とした場合の検討結果などを提示頂き、その上で、再度利用面についても議論できればと思う。</p>	<p>52P</p>
<p>事務局 110</p>	<p>・今回の協議会で頂いた意見に対する資料等は次回に提示したいと考えているが、アンケート調査や地元説明会については、現段階では止めるべきか、あるいは今回の意見や問題点を踏まえた上で実施すべきか。</p>	<p>52P</p>
<p>池田委員 111</p>	<p>・今回の協議会で、かなり根本的な内容について疑問が出されている状況で、現在の案をアンケート調査や地元説明会に出すことは、意識をすり込む危険性が強く、現段階で実施できないのではと思う。</p>	<p>52P 53P</p>
<p>事務局 112</p>	<p>・本協議会の委員委嘱期間が今年度末で満了を迎えるにあたり、委嘱期間を1年延長させて頂くことをお願いしたい。</p>	<p>53P</p>
<p>渡部委員 (事務所長)113 114 115</p>	<p>・第1回の協議会を開催してから本日で4回目を迎え、ようやくここまで来たというのが今回の協議会を聞かせていただきながらの実感である。 ・これまでの経緯を経て精査して頂いた公園構想や地域の現状、治水計画についてなど、今回の協議会に向けて整理した今回の資料が、今後も中核になり議論を繰り返していくとともに、地域の方とのコミュニケーションを広げていくためのツールになるのではと考えている。 ・今回頂いたご質問、ご意見を踏まえ、この資料をベースに改善しつつ、より多くの方々と百間川の問題を考えていく材料になればと考えている。今後も幅広くご意見を頂く中で、多くの方々に関心を持って頂き、また百間川のことを知って頂ければと考えている。</p>	<p>53P 54P</p>